

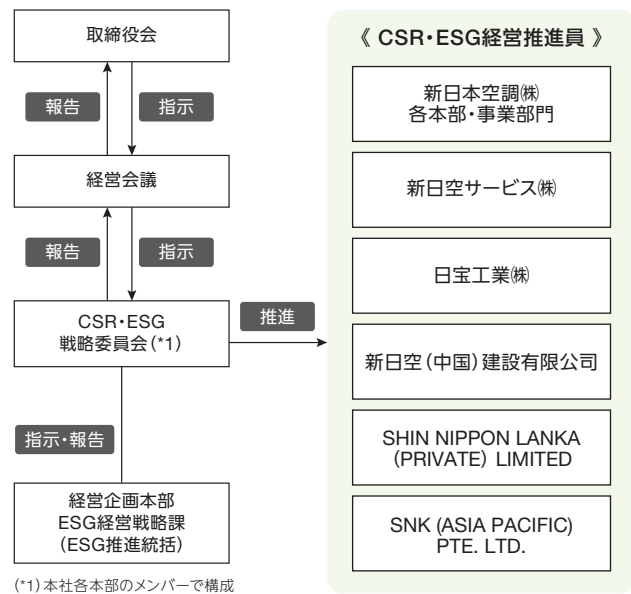
## ESG経営の考え方

事業を通じた社会課題の解決を強化するため、企業理念や会社の方針、中期経営計画、ISO26000の中核主題に沿って整理された社会課題に鑑み、中期経営計画を下支えする15項目の「CSRマテリアリティ（重要課題）」を特定しました。CSR・ESG活動に取り組むべき課題として、ステークホルダーの皆さまとのコミュニケーションを行いながら、継続的なCSR・ESG活動の改善につなげています。

## CSR・ESG戦略推進体制

「CSR・ESG戦略委員会」は、2018年10月より、SDGsに代表される社会課題や中長期的目標への取り組みを事業プロセスにブレイクダウンし、グループ内啓発活動やESG経営を推進するとともに、株主や投資家等、ステークホルダーに対する情報開示や建設的対話等を通じ、当社グループの取り組み姿勢を社内外に発信する方針を定めています。

また、それを実行する体制として、経営企画本部に「ESG経営戦略課」を設置し、各本部・事業部門・グループ会社には「CSR・ESG経営推進員」が任命され、ESGの浸透と具体的な活動を推進し、CSR・ESG戦略の最終意思決定は代表取締役社長責任の下、最高経営組織(取締役会)で承認、決定されています。



## 中期経営計画を下支えするCSRマテリアリティ

当社グループのマテリアリティは、中期経営計画「SNK Vision 2030」の5つの基本戦略にCSR課題を反映することを目的とし、事業への影響度と事業活動が社会に与える影響度を分析・評価した上で、中期経営計画を下支えする「CSRマテリアリティ」と位置付けています。

また、特定したマテリアリティ15項目については、経営戦略に係る活動目標を設定し、その目標を達成するための具体的なロードマップや達成度合いを図る経営指標(KPI)を策定しています。

なお、当マテリアリティは、社会情勢に鑑み、定期的にCSR・ESG戦略委員会にて見直しをし、事業と社会の持続可能な成長を目指しています。

マテリアリティ	取り組み内容	
1 環境	脱炭素社会の実現に向けたCO <sub>2</sub> 排出量削減提案 廃棄物の削減・リサイクル化の推進による資源保護	
2 労働安全衛生	労働災害と交通事故の撲滅 健康経営の推進	
3 技術革新	省力化工法、省CO <sub>2</sub> 技術開発と新たな価値提供に向けた事業開発	
4 人材育成	働きがいやリーダー養成研修を通じた人材育成の推進 従業員ナレッジの収集と活用による専門性の高度化	
5 品質確保と向上	品質確保に向けた現場情報活用	
6 リスクマネジメント	リスクの特定と予防・対策 危機管理における情報公開対応	
7 情報開示	企業理念浸透とCSR・ESG活動の基盤作り推進 ステークホルダーとの対話の推進	
8 公正な事業慣行	腐敗防止等の法令順守の推進	
9 コンプライアンス	コンプライアンス推進活動	
10 ダイバーシティ	女性従業員数の増加と活躍の推進 グローバルな交流を通じた多様性のある人材の活躍	
11 CSR調達	サプライチェーンとの連携による品質確保の強化	
12 情報セキュリティ	ITセキュリティ教育の推進による情報取扱の理解推進	
13 人権	人権の理解と現場でのハラスメント防止	
14 地域コミュニティ	地域コミュニティとの活動を推進 被災地支援・災害支援	
15 労使関連	持続的な企業価値向上を目指した労使関係の維持	

## 新日本空調グループのCSRマテリアリティ(重要課題)特定のプロセス

### STEP 1 社会からの要請を検証

社会の要請から、当社業務にかかわるカテゴリーを13項目洗い出し、仮設定した。

#### 参考にするガイドライン

- ・ISO26000
- ・GRIスタンダード
- ・UNGCの10原則



#### SDGs (持続可能な開発目標) への対応

- |           |           |        |            |
|-----------|-----------|--------|------------|
| ・環境       | ・公正な事業慣行  | ・人権    | ・労働安全衛生    |
| ・コンプライアンス | ・地域コミュニティ | ・人材育成  | ・ダイバーシティ   |
| ・労使関連     | ・品質       | ・CSR調達 | ・リスクマネジメント |
| ・情報セキュリティ |           |        |            |

### STEP 2 マテリアリティ特定前の現状把握

仮設定した13項目について、新日本空調グループにおいて「方針・体制・実績把握」の棚卸を実施した。

### STEP 3 マテリアリティとSDGsとの関連性を分析および協議

棚卸後、当社の事業推進において、「環境」「労働安全衛生」「ダイバーシティ」は、業態や人材の重要性の視点から、CSR・ESG戦略委員会の傘下で分科会(\*2)を結成し、優先して取り組む課題について重点的に分析をした。その他10項目については、CSR・ESG戦略委員会メンバーにて課題を抽出し、SDGsとの関連性を分析した。

(\*2)環境、労働安全衛生、ダイバーシティの3分科会

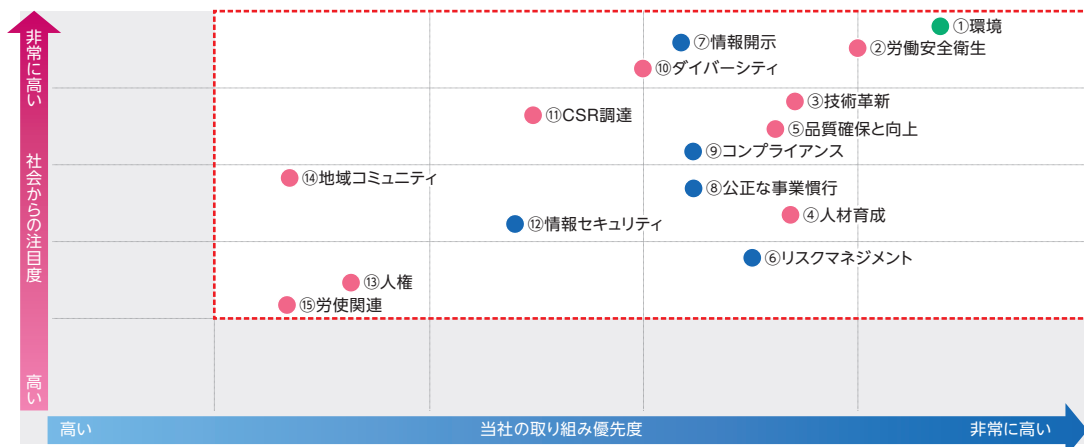
### STEP 4 中期経営計画を下支えするCSRマテリアリティとしての検証および特定

新中期経営計画「SNK Vision 2030」における当社グループが目指す将来像との連携を図るため、「情報開示」「技術革新」を追加し、当社のマテリアリティは15項目であることをCSR・ESG戦略委員会にて確認し、特定した。また、これら重要項目を「会社の方針」として新たに定め、経営の方針とした。

### STEP 5 取り組むマテリアリティ優先順位の決定

取り組むマテリアリティの優先順位づけは、同業社や主な顧客、アンケート調査(情報サービス企業)の動向、および、CSR・ESG戦略委員会でのアンケート調査をもとに検証し、縦軸に「社会からの注目度」、横軸に「当社の取り組み優先度」にてプロットし、決定した。

なお、下図の各マテリアリティに記載の番号(1~15)は、優先順位を表している。



### STEP 6 マテリアリティの目標設定

マテリアリティ15項目と取り組む優先順位、および優先して取り組むマテリアリティの具体的な目標について、経営会議による審議を経て決定した。